

# 国際共同研究事業 平成 3 1 年度実施報告書

令和 2 年 4 月 2 8 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

共同研究代表者

所属機関・部局 国立研究開発法人海洋研究開発機構

北極環境変動総合研究センター

(ふりがな) きむら さとし

職・氏名 研究員 木村 仁

1. 事業名 国際共同研究事業 英国との国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) 人為起源の気候変動がもたらす西南極氷床融解への影響評価  
(英文) Quantifying Human Influence on Ocean Melting of the West Antarctic Ice Sheet
3. 共同研究実施期間 (全採用期間)  
平成 31 年 2 月 14 日 ~ 令和 4 年 2 月 13 日 (3 年 0 ヶ月)
4. 研究参加者 (代表者を含む)  
(1) 日本側参加者 4 名 (2) 相手国側参加者 3 名
5. 主要な物品購入状況 (単価 (一品又は一組) 若しくは一式の価格が 50 万円以上のものを購入した場合は記載)

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名	備考
ワークステーション	UNI-i9X/Silent	2	687,720	1,375,440	国立研究開発法人海洋研究開発機構	

備考：本事業の委託費と他の経費とを合算使用する際は、合算使用した旨を備考欄に記載した上で、金額は本事業の委託費によるもののみ計上してください。

## 8. 研究実施状況

※ 申請書の内容及び当該年度実施計画書の「5. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に記入してください。年度途中で当初計画を変更した場合にはその内容及び理由も明記してください。

本課題の大きな目標は、領域海洋モデルの結果から、棚氷融解の変動及び、融解水が棚氷周辺の海洋循環に与える影響を評価する事である。本年度はこの目標を達成するため、海洋モデルに棚氷融解水のトレーサーを組み込み、モデルを 1979 年から 2017 年まで積分した。トレーサーを組み込むことにより海洋モデル内の淡水（棚氷遊海水、海水融解水、降水など）の流路を追跡し、モデル内全ての格子において淡水収支を計算することが可能となった。研究計画は変更なく順調に進んでいるが、英国での研究関連の打ち合わせを新型コロナウイルスの状況を勘案してキャンセルした。打ち合わせはスカイプを使用して行った。

9. 研究発表（平成 年度の研究成果）

【雑誌論文】 計（ ）件    うち査読付論文 計（ ）件

通番	共著の有無*	論文名、著者名等**
1		
2		
3		

【学会発表】 計（ ）件    うち招待講演 計（ ）件

通番	共著の有無*	標題、発表者名等**
1		
2		

【図 書】 計（ ）件

通番	共著の有無*	題名、著者名等**
1		

\* 相手国研究代表者との共著（共同発表）がある場合は○、相手国研究代表者との共著であり謝辞等に事業名を明記している場合は◎と記入。

\*\* 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、学会発表の場合は標題、発表者名、学会等名、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など（順番は入れ替わってもよい）。

\*\*\* 足りない場合は適宜行を追加すること。

1. この報告書は、最終年度を除く毎年度提出してください。
2. 本会の事業報告等に記載するための適当な図・写真等があれば、説明を付して添付してください。
3. この報告書は、本共同研究の成果として本会ウェブサイトに掲載します。また、この報告書を本会の事業報告として刊行する場合、内容に影響しない範囲で修正を行うことがあります。
4. 知的財産権等の事情で本報告書の一部の公開を希望しない場合は、対応についてあらかじめ本会担当者に相談してください。